

常議員立候補のご挨拶

荒木利之



この度、PA 会からご推薦をいただき、令和元年度の日本弁理士会役員定時選挙において常議員として立候補させていただくことになりました荒木利之と申します。どうぞよろしくお願いいたします。立候補にあたり、簡単ではございますが自己紹介を兼ねてご挨拶をさせていただきます。

多くの先生方に当てはまることかもしれませんが、私は最初から知財の世界を目指していたわけではなく、特許事務所に就職し、知財の世界に足を踏み入れたのは 28 歳の頃でした。それ以前は知財とはかけ離れた出版業界におりました。趣味雑誌の編集を担当し、オートバイや自転車、旅、文房具、ギターなどの業界で取材し、記事を書き、紙面を編集しました。この仕事では、なかなか行けないような場所に行き、なかなか会えないような人にたくさん会わせていただきました。編集時代の貴重な経験の数々は今も私の仕事に生きていていると思っています。

出版業界を離れたきっかけは、元々理系大学卒であることもあり、より専門性の高い記事を書きたいと思ったことにあります。科学的、技術的に詳細な話が大好きなのですが、そんな私に特許明細書を書くという仕事はすごく性に合いました。最初は特許事務所で特許明細書を書いていれば知識欲は満たされたのですが、もっと発明者や出願人の役に立ちたいと思うようになり、弁理士試験を受け、平成 23 年度に合格いたしました。その後、もっと直接的にクライアントに接したいと思うようになり、独立を決心しました。開業して 3 年が経ち、今に至ります。

さて、PA 会に入会した理由は、以前勤めていた特許事務所に PA 会所属の先生がたくさんいたから、

という単純な理由です。そのため、最初はそこまで PA 会に関わることもなく、イベントに参加することも年に数回という状況で数年を過ごしておりました。ところで私はギター演奏を趣味のひとつとして楽しんでいるのですが、ある日 PA 会所属の知り合いの弁理士から、PA 会で音楽同好会を立ち上げるという話があるから協力してもらえないか、という話をもらいました。音楽は知財と同じくらい大好きですので、二つ返事で引き受けまして、この出来事が現在の音楽同好会の幹事を務めるきっかけとなりました。

音楽同好会では、最初は楽器を演奏して楽しめればよいという軽い気持ちだったのですが、PA 会の行事でにぎやかかして演奏したり、同好会が主催する貸し切りライブ等で演奏したりしているうちに、演奏の楽しさに増して、演奏している場に参加している人とのつながりの喜びを感じるようになりました。自分が話をさせてもらってよいのかと思うような先生方とも音楽というフィルターを通すと不思議と話しやすく感じました。イベントに参加していただいている方々も互いに垣根を取り払って自然とコミュニケーションしていただいているように感じました。

音楽同好会で人との交流の大切さに気づいたことをきっかけに、PA 会の幹事会や弁理士会の委員会活動にも参加するようになりました。また、PA 会に入会させて頂いたことで、色々な経験をさせて頂き、大変感謝しております。常議員に当選させて頂きましたら、PA 会のさらなる交流と団結のために精一杯努めさせて頂く所存でございます。選挙期間中は何かとご面倒をお掛け致しますが、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(文書責任者：渡邊伸一)